

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）の検証結果について（令和6年度）

事業名/事業費	事業内容	指標 (KPI)重要業績評価指標	地方創生への効果/その理由	今後の方針/その理由
山鹿市ふるさと 未来創造事業	■にぎわい再創出事業 （１）観光誘致対策事業（コンベンション宿泊助成） （２）来訪者を呼び込むための仕組みづくり	①観光入込客数（千人） ②観光宿泊者数（千人） ③観光消費額（百万円） ④まちゼミ参加店舗数（件）	➤ <u>効果があった</u> 新型コロナウイルス感染症の５類移行後、インバウンド観光客の増加に伴いK P I ①について達成することができた。②・③については、宿泊料金高騰などの影響もあり目標値は達成できなかったが、台湾をメインターゲットにしたプロモーションを近隣の自治体と連携して取り組んだ結果、インバウンド観光客が増加しており、新たな誘客促進へとつながりつつある。K P I ④の「まちゼミ」については、コロナ禍の影響及び募集周知の不足により、参加店舗数、参加者数ともに減少しているが、これまでのまちゼミで得たノウハウを活用して事業者独自で開催している者も増加していることから、まちゼミは３年間で一旦終了とする。	➤ <u>計画どおりに継続</u> にぎわい再創出事業については、福岡県をメインターゲットに観光施設だけでなく、本市の食の魅力の情報も積極的に発信し、観光入込客や宿泊者を増加させる。また、博多駅からの直行バス運行の実施に向けて取り組み、宿泊客も利用しやすい交通アクセス整備を支援していく。 ふるさと未来創造事業については、高齢化が進む商業・観光エリアの課題解決に向けて、eスポーツや、大手ゲームメーカーと連携したプログラミング学習を継続して実施することで、多くの関係者との新たな関係性の構築や人材発掘及び育成、シビックプライドの醸成等につながるだけでなく、これらの取組を通じてこれまでにない誘客促進事業に発展させ、交流人口の拡大につなげる。
	事業費 10,400,000円	■ふるさと未来創造事業 （１）eスポーツを活用したにぎわいづくり、ICT人材育成 （２）まちゼミ等を活用した市内事業者間の交流促進、事業者間の連携強化、人材育成 （３）やまが未来創造塾事業		